

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-293752

(P2006-293752A)

(43) 公開日 平成18年10月26日(2006.10.26)

(51) Int. Cl.

F I

テーマコード (参考)

G06Q 50/00 (2006.01)

G06F 17/60 126A

G06Q 40/00 (2006.01)

G06F 17/60 242

G06Q 20/00 (2006.01)

G06F 17/60 410C

G06F 17/60 ZEC

審査請求 有 請求項の数 13 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2005-114616 (P2005-114616)

(22) 出願日 平成17年4月12日 (2005.4.12)

(71) 出願人 504390779

有限会社 ライフタイム

東京都大田区北糎谷1丁目11番6号

(74) 代理人 100077908

弁理士 畠山 隆

(72) 発明者 五味 悠一郎

東京都練馬区豊玉北5-24-1

(72) 発明者 茂木 重次

東京都文京区水道2-6-2

(72) 発明者 市川 美樹

東京都大田区南久が原1-5-18

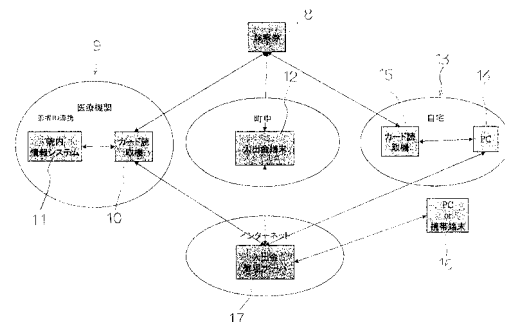
(54) 【発明の名称】 診察券を用いた医療費支払いシステム。

(57) 【要約】

【課題】医療機関を利用する患者が検査や診療受け、該診療が終了したときに支払う会計の長時間の順番待ちの解消と、診療費用の支払いのために現金を持ち歩くことを不要とした。

【解決手段】医療機関にかかることにより生じた全ての経費を患者が支払うに際して、患者は、クレジット会社と提携した診察券、プリペイドカード会社と提携した診察券、デビットカードと提携した診察券、或いは、銀行と提携した診察券を持ち、該診察券の中には磁気テープやIC、及びメモリーチップを埋め込み、該磁気テープやIC、及びメモリーチップ内には患者自身の個人情報、並びに利用できる必要金額を保持でき、該診察券の電子マネーをCD・ATMにより移動させて支払いをすることができる機能を有した電子マネーカードとした。

【選択図】図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

医療機関における診察費用、検査費用、診療費用、薬代等全ての経費を患者が支払うに際して患者は、クレジット会社と提携したクレジット方式の診察券、銀行と提携したキャッシュカード方式の診察券、プリペイドカード会社と提携したプリペード方式の診察券、或いはデビットカード会社と提携した即時払い方式の診察券を持ち、

該それぞれの診察券には磁気テープやＩＣ及びメモリーチップを埋め込み、

該磁気テープやＩＣ及びメモリーチップ内には患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者のＩＤ等の個人情報、並びに利用できる必要金額を電子マネーカード専用のＣＤ・ＡＴＭにより移動させて支払いをすることができる機能を有していること、

10

を特徴とする診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項 2】

医療機関における診察費用、検査費用、診療費用、薬代等全ての経費を患者が支払うに際して患者は、クレジット会社と提携したクレジット方式の診察券、銀行と提携したキャッシュカード方式の診察券、プリペイドカード会社と提携したプリペード方式の診察券、或いはデビットカード会社と提携した即時払い方式の診察券を持ち、

該それぞれの診察券には磁気テープやＩＣ及びメモリーチップを埋め込み、

該磁気テープやＩＣ及びメモリーチップ内には患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者のＩＤ等の個人情報、並びに利用できる電子マネーの情報が書き込まれており、

20

該診察券に書き込まれた個人情報や電子マネー情報は病院内や町中に設置された電子マネーカード専用のＣＤ・ＡＴＭや患者の操作するＰＣ並びに携帯電話のＬモード等の携帯端末により書き換えや電子マネーのチャージを可能としたこと、

を特徴とする診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項 3】

医療機関における診療を受けた患者が医療費支払い用の手段として使用する診察券は患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者のＩＤ等の個人情報並びに電子マネーの情報が書き込まれた電子マネーカードの機能を有しており、

該電子マネーカード専用のＣＤ・ＡＴＭの端末機は患者が使用する医療費支払い用ＣＤ・ＡＴＭの端末機と、医療機関の関係者が使用するカード読み取り機能を有する端末機とをインターネットで入出金管理会社の管理サーバに接続してなり、

30

該入出金管理会社と前記診療費用の決済を行うクレジット会社用端末機、銀行用端末機、プリペイドカード会社用端末機、デビットカード会社端末機を接続して患者の医療費を決済可能にネットワークを構築したこと、

を特徴とする診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項 4】

前記患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券は、サーバの公開鍵で暗号化されたカード固有のＩＤ、患者固有のＩＤ、並びに患者固有の公開キーを有していること、

を特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

40

【請求項 5】

前記患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券を管理する入出金管理会社の管理サーバには所持データとして、患者固有のＩＤ、患者固有の公開キー、カード固有のＩＤ、パスワード、生体認証データ、写真データ、利用記録、残金情報が保持されていること、

を特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項 6】

前記患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察

50

券には電子マネーの決済のためのデータのみを保有し、前記患者の当該医療機関の所持データとしての患者固有のＩＤ、診察番号、写真データ、患者情報、診察記録、検査記録等は管理サーバ内に保持されていること、

を特徴とする請求項１乃至請求項５のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項７】

前記患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券は、該診察券の電子マネーの入出金方法として医療機関内に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、自宅のＰＣでインターネットに接続された専用端末や、町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、コンビニエンスストア等に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、金融機関と提携したデビットカード会社にＣＤ・ＡＴＭの端末機を介してアクセスすることで電子マネーの入出金操作が行えること、

10

を特徴とする請求項１乃至請求項６のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項８】

前記患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券は、該診察券の電子マネーの入出金方法として医療機関内に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、自宅のＰＣでインターネットに接続された専用端末や、町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、コンビニエンスストア等に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、金融機関と提携したデビットカード会社にＣＤ・ＡＴＭの端末機を介してアクセスすることで電子マネーの入出金操作が行え、該診察券は複数の医療機関で使用できる共通の診察券機能を有すること、

20

を特徴とする請求項１乃至請求項７のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項９】

前記患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券の新規発行は、患者本人と患者がかかる医療機関や該医療機関と連携されたカード会社を介して郵便等で患者本人を確認の後、クレジットカード会社、プリペイドカード会社、デビットカード会社そしてキャッシュカードを発行する金融機関等がそれぞれの使用勝手に基づいて前記診察券を発行すること、

30

を特徴とする請求項１乃至請求項８のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項１０】

前記患者が急に医療機関にかかり初めて電子マネーカード機能を有する診察券を必要とする際には、当該医療機関は仮カードを発行し、後日患者がかかった医療機関や該医療機関と連繋されたカード会社を介して郵便等で患者本人を確認の後、クレジットカード会社、プリペイドカード会社、デビットカード会社そしてキャッシュカードを発行する金融機関等がそれぞれの使用勝手に基づいて前記電子マネーカード機能を有する診察券を発行すること、

を特徴とする請求項１乃至請求項９のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

40

【請求項１１】

前記患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券の電子マネーを入金する方法は患者が自宅のＰＣや携帯電話にてチャージした電子マネーを銀行に転送すること、並びに患者本人が町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、コンビニエンスストア等に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機で現金を入金することにて行われること、

を特徴とする請求項１乃至請求項１０のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項１２】

50

前記患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券の電子マネーを出金する方法は電子マネーの残金を金融機関を介して確認し、決済金額に見合う残金がある場合には利用可能となり、決済金額に見合う残金がない場合には利用不可能となること、

を特徴とする請求項 1 乃至請求項 1 1 のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

【請求項 1 3】

前記患者が医療機関で使用する電子マネーカード機能を有する診察券の認証方式はインターネット用に ID とパスワード、医療機関での患者本人の確認用に写真、CD・ATM の端末機での患者本人の確認用に暗証番号と生体認証を組み合わせることができること、

を特徴とする請求項 1 乃至請求項 1 2 のいずれかに記載された診察券を用いた医療費支払いシステム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、診察券を医療機関毎に所有して自己管理をする煩わしさや煩雑さを解消し、また、医療機関毎に医療費の支払いに関し、現金精算する手間をなくして、現金を持ち歩かなくても、診察や検診、治療を受けることができる診察券を用いた医療費支払いシステムに関するものである。

【0002】

本発明において、医療機関とは、病院、診療所、療養所、その他薬局等医療に関する機関を示しており、本発明は、前記複数の医療機関において、診察費用、検査費用、治療費、入院費用、手術費用、薬代等の支払いを一枚の診察券にて共通して用いることのできる医療費支払いシステムを提供するものである。

【0003】

本発明に使用される診察券は、医療費の支払い手段として電子マネーカードを使用するものである。

而して、当該電子マネーカードは、例えばクレジット会社系のものはクレジットカードの中に、銀行系のものはキャッシュカードの中に、プリペイド式カードではプリペイドカードの中に、そしてデビットカード会社系のものはデビットカードの中に、磁気テープや、IC 及びメモリーチップを埋め込み、該メモリー内に自分の口座の預金残高、並びにカードの残高の中から予め決められた限度内、若しくは必要な分の金額を用意しておき、該金額を電子マネーカード専用 CD・ATM により医療機関側に移動させて支払いをすることができるシステムに関するものである。

【背景技術】

【0004】

従来、病院経営の立場で煩雑な医事会計処理システムや医事会計処理システム用のコンピュータプログラムが開発されている。

例えば特許文献 1 においては、診療報酬の計算作業等をはじめとして、病院に関して通常必要とされる医療に関する情報の処理ないし管理を簡易に実施しうる医事会計処理システムを開示している。

【特許文献 1】特開 2003 - 203114 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明が解決しようとする課題は、上記特許文献 1 の如く病院経営の立場にて煩雑な医事会計処理をするのではなく、病院利用者にサービスを提供する立場で考えた医療費支払いシステムに関するものである。

【0006】

10

20

30

40

50

病院等の医療機関を利用する患者が毎回困ることは、検査や診療受け、該診療が終了したときに支払う会計の長時間の順番待ちと、そのために現金を持ち歩くことである。

病気中の診療で、現金の管理は、おぼつくものではなく、勢い同伴者に大きな負担を掛けることになるが、これが入院ともなると、病室での現金の管理は、決して好ましいものではなく、また退院時の支払いも家族におよその金額をもってきてもらい支払いを済ませているのが現状である。

【 0 0 0 7 】

斯くして、本発明は、上述の医療機関内の会計での長時間の順番待ちを解消するほか、患者が通院する毎に現金を持ち歩く事を必要とせず、特に入院等では、患者側の立場にたった医療費支払いシステムを提供するものである。。

10

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

本発明は、医療機関における診察費用、検査費用、診療費用、薬代等全ての経費を患者が支払うに際して患者は、クレジット会社と提携したクレジット方式の診察券、銀行と提携したキャッシュカード方式の診察券、プリペイドカード会社と提携したプリペード方式の診察券、或いはデビットカード会社と提携した即時払い方式の診察券を持ち、該それぞれの診察券には磁気テープやＩＣ及びメモリーチップを埋め込み、該磁気テープやＩＣ及びメモリーチップ内には患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者のＩＤ等の個人情報、並びに利用できる必要金額を電子マネーカード専用のＣＤ・ＡＴＭにより移動させて支払いをすることができる機能を有している診察券を用いた医療費支払いシステムを要旨とする。

20

【 0 0 0 9 】

また、本発明は、医療機関における診察費用、検査費用、診療費用、薬代等全ての経費を患者が支払うに際して患者は、クレジット会社と提携したクレジット方式の診察券、銀行と提携したキャッシュカード方式の診察券、プリペイドカード会社と提携したプリペード方式の診察券、或いはデビットカード会社と提携した即時払い方式の診察券を持ち、該それぞれの診察券には磁気テープやＩＣ及びメモリーチップを埋め込み、該磁気テープやＩＣ及びメモリーチップ内には患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者のＩＤ等の個人情報、並びに利用できる電子マネーの情報が書き込まれており、該診察券に書き込まれた個人情報や電子マネー情報は病院内や町中に設置された電子マネーカード専用の

30

【 0 0 1 0 】

また、本発明は、医療機関における診療を受けた患者が医療費支払い用の手段として使用する診察券は患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者のＩＤ等の個人情報並びに電子マネーの情報が書き込まれた電子マネーカードの機能を有しており、該電子マネーカード専用のＣＤ・ＡＴＭの端末機は患者が使用する医療費支払い用ＣＤ・ＡＴＭの端末機と、医療機関の関係者が使用するカード読み取り機能を有する端末機とをインターネットで入出金管理管理会社の管理サーバに接続してなり、該入出金管理管理会社と前記診療費用の決済を行うクレジット会社用端末機、銀行用端末機、プリペイドカード会社用端末機、デビットカード会社端末機を接続して患者の医療費を決済可能にネットワークを構築した診察券を用いた医療費支払いシステムを要旨とする。

40

【 0 0 1 1 】

そして、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券は、サーバの公開鍵で暗号化されたカード固有のＩＤ、患者固有のＩＤ、並びに患者固有の公開キーを有していることを特徴としている診察券を用いた医療費支払いシステムである。

【 0 0 1 2 】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカ

50

ード機能を有する診察券を管理する入出金管理管理会社の管理サーバには、所持データとして、患者固有のＩＤ、患者固有の公開キー、カード固有のＩＤ、パスワード、生体認証データ、写真データ、利用記録、残金情報が保持されていることを特徴とする診察券を用いた医療費支払いシステムである。

【００１３】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券には電子マネーの決済のためのデータのみを保有し、前記患者の当該医療機関の所持データとしての患者固有のＩＤ、診察番号、写真データ、患者情報、診察記録、検査記録等は管理サーバ内に保持されていることを特徴とすることを特徴とする診察券を用いた医療費支払いシステムである。

10

【００１４】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券は、該診察券の電子マネーの入出金方法として医療機関内に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、自宅のＰＣでインターネットに接続された専用端末や、町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、コンビニエンスストア等に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、金融機関と提携したデビットカード会社にＣＤ・ＡＴＭの端末機を介してアクセスすることで電子マネーの入出金操作が行えることを特徴とする診察券を用いた医療費支払いシステムである。

【００１５】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券は、該診察券の電子マネーの入出金方法として医療機関内に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、自宅のＰＣでインターネットに接続された専用端末や、町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、コンビニエンスストア等に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、金融機関と提携したデビットカード会社にＣＤ・ＡＴＭの端末機を介してアクセスすることで電子マネーの入出金操作が行え、該診察券は複数の医療機関で利用できる共通の診察券機能を有することを特徴とする診察券を用いた医療費支払いシステムである。。

20

【００１６】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券の新規発行は、患者本人と患者がかかる医療機関や該医療機関と連携されたカード会社を介して郵便等で患者本人を確認の後、クレジットカード会社、プリペイドカード会社、デビットカード会社そしてキャッシュカードを発行する金融機関等がそれぞれの使用勝手に基づいて前記診察券を発行すること特徴とする医療費支払いシステムである。

30

【００１７】

また、本発明において、患者が急に医療機関にかかり初めて電子マネーカード機能を有する診察券を必要とする際には、当該医療機関は仮カードを発行し、後日患者がかかった医療機関や該医療機関と連繋されたカード会社を介して郵便等で患者本人を確認の後、クレジットカード会社、プリペイドカード会社、デビットカード会社そしてキャッシュカードを発行する金融機関等がそれぞれの使用勝手に基づいて前記電子マネーカード機能を有する診察券を発行することを特徴とする医療費支払いシステムである。

40

【００１８】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券の電子マネーを入金する方法は、患者が自宅のＰＣや携帯電話にてチャージした電子マネーを銀行に転送すること、並びに患者本人が町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、コンビニエンスストア等に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機で現金を入金することにて行われることを特徴とする診察券を用いた医療費支払いシステムである。

【００１９】

また、本発明においては、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネー

50

カード機能を有する診察券の電子マネーを出金する方法は、電子マネーの残金を金融機関を介して確認し、決済金額に見合う残金がある場合には利用可能となり、決済金額に見合う残金がない場合には利用不可能となることを特徴とする医療費支払いシステムである。

【0020】

更にまた、本発明において、患者が医療機関で使用する電子マネーカード機能を有する診察券の認証方式は、インターネット用にIDとパスワード、医療機関での患者本人の確認用に写真、CD・ATMの端末機での患者本人の確認用に暗証番号と生体認証を組み合わせ使用することができることを特徴とする診察券を用いた医療費支払いシステムである。

【発明の効果】

10

【0021】

本発明は、診察券を医療機関毎に所有して自己管理をする煩わしさや煩雑さを解消し、また、医療機関毎に医療費の支払いに関し、現金精算する手間をなくして、現金を持ち歩かなくても、診察や検診、治療を受けることができる診察券を用いた医療費支払いシステムを提供することができた。

【0022】

本発明に使用される診察券は、医療費の支払い手段として電子マネーカードを使用することにより、当該電子マネーカードは、例えばクレジット会社系のものはクレジットカードの中に、銀行系のものはキャッシュカードの中に、プリペイド式カードではプリペイドカードの中に、そしてデビットカード会社系のものはデビットカードの中に、磁気テープや、IC及びメモリーチップを埋め込み、該メモリー内に自分の口座の預金残高、並びにカードの残高の中から予め決められた限度内、若しくは必要な分の金額を用意しておき、該金額を電子マネーカード専用CD・ATMにより医療機関側に移動させて支払いをすることができるシステムに関するもので、該システムの具現化により、通院や入院時に現金を持ち歩くこともなく、また医療機関での諸費用の支払いのためや、薬局での長時間の順番待ちを省くことができた。

20

【0023】

また、本発明における診察券を用いた医療費支払いシステムでは、患者が患者用端末機を操作する事により諸費用の支払い決済明細領収書を印刷物として受領でき、また処方箋を印刷物として受領でき、更に次の診療予約も印刷物として受領することができ、これらの情報を得るのに費やす時間を非常に短縮できて大変便利である。

30

【発明を実施するための最良の形態】

【0024】

本発明を実施するための最良の形態は、医療機関における診察費用、検査費用、診療費用、薬代等全ての経費を患者が支払うに際して患者は、クレジット会社と提携したクレジット方式の診察券、銀行と提携したキャッシュカード方式の診察券、プリペイドカード会社と提携したプリペイド方式の診察券、或いはデビットカード会社と提携した即時払い方式の診察券を持ち、該それぞれの診察券には磁気テープやIC及びメモリーチップを埋め込み、該磁気テープやIC及びメモリーチップ内には患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者のID等の個人情報、並びに利用できる必要金額を電子マネーカード専用のCD・ATMにより移動させて支払いをすることができる機能を有した電子マネーカードとすることにより、通院や入院時に現金を持ち歩くこともなく、また諸費用の支払いのために順番待ちを省いたことを最も主要な特徴とする診察カードを用いた医療費支払いシステムを構築したことである。

40

【0025】

また、本発明において、医療機関における診察費用、検査費用、診療費用、薬代等全ての経費を患者が支払うに際して患者は、クレジット会社と提携したクレジット方式の診察券、銀行と提携したキャッシュカード方式の診察券、プリペイドカード会社と提携したプリペイド方式の診察券、或いはデビットカード会社と提携した即時払い方式の診察券を持ち、該それぞれの診察券には磁気テープやIC及びメモリーチップを埋め込み、該磁気テ

50

ープやＩＣ及びメモリーチップ内には患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者のＩＤ等の個人情報、並びに利用できる電子マネーの情報が書き込まれており、該診察券に書き込まれた個人情報や電子マネー情報は病院内や町中に設置された電子マネーカード専用のＣＤ・ＡＴＭや患者の操作するＰＣ並びに携帯電話のＬモード等の携帯端末により書き換えや電子マネーのチャージを可能としたことが好ましい。

【００２６】

また、本発明において、医療機関における診療を受けた患者が医療費支払い用の手段として使用する診察券は、患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者のＩＤ等の個人情報並びに電子マネーの情報が書き込まれた電子マネーカードの機能を有しており、該電子マネーカード専用のＣＤ・ＡＴＭの端末機は患者が使用する医療費支払い用ＣＤ・ＡＴＭの端末機と、医療機関の関係者が使用するカード読み取り機能を有する端末機とをインターネットで入出金管理会社の管理サーバに接続してなり、該入出金管理会社と前記診療費用の決済を行うクレジット会社用端末機、銀行用端末機、プリペイドカード会社用端末機、デビットカード会社用端末機を接続して患者の医療費を決済可能にネットワークを構築することが好ましい。

10

【００２７】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券は、サーバの公開鍵で暗号化されたカード固有のＩＤ、患者固有のＩＤ、並びに患者固有の公開キーを有していることが好ましい。

【００２８】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券を管理する入出金管理会社の管理サーバには、所持データとして、患者固有のＩＤ、患者固有の公開キー、カード固有のＩＤ、パスワード、生体認証データ、写真データ、利用記録、残金情報が保持されていることが好ましい。

20

【００２９】

また、本発明において患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券には、電子マネーの決済のためのデータのみを保有し、前記患者の当該医療機関の所持データとしての患者固有のＩＤ、診察番号、写真データ、患者情報、診察記録、検査記録等は管理サーバ内に保持されていることが好ましい。

30

【００３０】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券は、該診察券の電子マネーの入出金方法として医療機関内に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、自宅のＰＣでインターネットに接続された専用端末や、町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、コンビニエンスストア等に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、金融機関と提携したデビットカード会社にＣＤ・ＡＴＭの端末機を介してアクセスすることで電子マネーの入出金操作が行えることが好ましい。

【００３１】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券は、該診察券の電子マネーの入出金方法として医療機関内に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、自宅のＰＣでインターネットに接続された専用端末や、町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、コンビニエンスストア等に設置されたＣＤ・ＡＴＭの端末機や、金融機関と提携したデビットカード会社にＣＤ・ＡＴＭの端末機を介してアクセスすることで電子マネーの入出金操作が行え、該診察券は複数の医療機関で利用できる共通の診察券機能を有することが好ましい。

40

【００３２】

また、本発明において、患者が前記患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券の新規発行は、患者本人と患者がかかる医療機関や該医療機関と連携されたカード会社を介して郵便等で患者本人を確認の後、クレジットカー

50

ド会社、プリペイドカード会社、デビットカード会社そしてキャッシュカードを発行する金融機関等がそれぞれの使用勝手に基づいて前記診察券を発行することが好ましい。

【0033】

また、本発明において、患者が急に医療機関にかかり初めて電子マネーカード機能を有する診察券を必要とする際には、当該医療機関は電子マネーカード機能を付加されていない仮カードを発行し、後日患者がかかった医療機関や該医療機関と連繫されたカード会社を介して郵便等で患者本人を確認の後、クレジットカード会社、プリペイドカード会社、デビットカード会社そしてキャッシュカードを発行する金融機関等がそれぞれの使用勝手に基づいて前記電子マネーカード機能を有する診察券を発行することが好ましい。

【0034】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券の電子マネーを入金する方法は、患者が自宅のPCや携帯電話にてチャージした電子マネーを銀行に転送すること、並びに患者本人が町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたCD・ATMの端末機や、コンビニエンスストア等に設置されたCD・ATMの端末機で現金を入金することにて行われることが好ましい。

【0035】

また、本発明において、患者が医療機関での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券の電子マネーを出金する方法は、電子マネーの残金を金融機関を介して確認し、決済金額に見合う残金がある場合には利用可能となり、決済金額に見合う残金がない場合には利用不可能となることが好ましい。

【0036】

更に、また、本発明において、患者が医療機関で使用する電子マネーカード機能を有する診察券の認証方式は、インターネット用にIDとパスワード、医療機関での患者本人の確認用に写真、CD・ATMの端末機での患者本人の確認用に暗証番号と生体認証を組み合わせ使用することができることが好ましい。

【実施例1】

【0037】

本発明の実施例を図1並びに図2に基き説明する。図1は本発明の実施の形態を説明する診察券を用いた医療費支払いシステムの構成を示すブロック図である。また図2は本発明の実施例に係る診察カードを用いた医療費支払いシステムに対する各種操作及び該システムの流れを示すフローチャート図である。

【0038】

而して、本発明の実施例の構成を図1を参照して説明する。本発明の診察券を用いた医療費支払いシステムは、医療機関内に設置される複数の患者用CD・ATM端末機1a、1b、1c・・・と、病院内に設置される病院関係者用端末機2と、薬局に設置される薬局用CD・ATM端末機3とが医療機関のCD・ATM端末機Hを構成しており、このような構成の複数の医療機関の情報が患者の診察券には書き込みされている。また4はクレジット会社端末機、5はプリペイドカード会社端末機、6はデビットカード会社端末機であり、7は金融機関、即ち、銀行・郵便局等のCD・ATM端末機からなり、それらを接続するインターネットINETのネットワークから構成されている。

【0039】

また、図1には図示していないが、インターネットINのネットワークに接続される病院内外の売店、店舗も本発明を完璧に機能させる要素となる。

【0040】

そして前記患者用CD・ATM端末機1a、1b、1c・・・は、電子マネーカード専用ATMとなっており、本発明の診察券を用いた医療費支払いシステムでは、医療機関Hでの諸費用の支払い手段として診察券に内装された電子マネーを使用する。前記電子マネーの診察券は、例えば、クレジット会社系のものはクレジットカードを診察券として使用し、該クレジットカードの中には、磁気テープや、IC、及びメモリーチップを埋め込んであり、患者の基本情報、診察記録等と共にクレジット会社との契約で予め決められてい

10

20

30

40

50

る限度内の金額を移動させることができ、医療機関Hでの諸費用の支払いが後払いでできる。

【0041】

また、前記診察券はプリペイドカード会社のカードも前期同様に診察券として使用でき、この場合にはプリペイドカードの中に磁気テープやIC、及びメモリーチップを埋め込み、該記憶装置内に患者の基本情報、診察記録と共に前払いで必要金額をチャージしておけば、該前払い金額の中で金額を移動でき、医療機関Hでの諸費用の支払いができるように、予めプリペイドカード会社に予定金額を課金しておけば診察券が電子マネーとして使用できる。

【0042】

更に、銀行系のものは、キャッシュカードの中に磁気テープやIC、及びメモリーチップを埋め込み、該記憶装置内に患者の基本情報、診察記録と共に自分の口座の預金残高を確保しておき、該預金残高の中から必要な預金を移動させて、医療機関Hでの諸費用の支払いを診察券で行う形の電子マネーである。

【0043】

更に、またデビットカード会社のカードも前記同様に診察券として使用でき、この場合にはデビットカードの中に磁気テープやIC、及びメモリーチップを埋め込み、該記憶装置内に患者の基本情報、診察記録と共に支払い限度額内で金額を移動でき、医療機関Hでの諸費用の支払いが即時払いできるように、予めプリペイドカード会社に予定金額を課金しておけば診察券が電子マネーとして使用できる。

【0044】

而して、本発明において使用される診察券は、上記クレジット会社の電子マネーであったり、プリペイドカードの電子マネーであったり、また、デビットカードの電子マネーであったり、或いは銀行のキャッシュカードからなる電子マネーであったりする。

【0045】

前記電子マネーである診察券は、医療機関H内に複数台設置され、診察を受けた患者が使用する病院内患者用CD・ATM端末機1a、1b、1c・・・で患者は、患者自身の個人情報を読み込ませることにより、病院関係者用端末機2より送信されてくる新しい患者情報をも受信して、該情報により診療費用、検査費用等の諸費用の確認がおこなえる。

【0046】

即ち、前記病院内患者用CD・ATM端末機1a、1b、1c・・・で患者は、患者自身の個人情報を読み込ませることにより、該患者用CD・ATM端末機1a、1b、1c・・・で患者自身が行った諸費用の支払い決済に対して領収書を印刷物として受領することもできる。

【0047】

また、患者用CD・ATM端末機1a、1b、1c・・・では、病院における診療、検査、手術、入院等全ての医療行為の区切りが完了した1日、または1ヶ月、或いは退院の時点で、投薬の必要性の有無を確認して処方箋を印刷物として受領できる。

【0048】

更に、患者用CD・ATM端末機1a、1b、1c・・・では、患者の要求、または自動的に次の通院日時、医療科目等のインフォメーションを印刷物として受領できる。

【0049】

而して、患者が病院や薬局に諸費用を支払うには、診察券化されている電子マネーの読み込みを行い、診療費用等諸費用支払い指示をクレジット会社端末機4、銀行端末機6、プリペイドカード会社端末機5、デビットカード会社端末機6、または、杞憂機関の端末7等それぞれの電子マネー発行先に送信すればよい。

【0050】

病院関係者用端末2は、病院関係者が使用する端末で、各患者さん毎の診察に対する診療費用や検査、入院、手術費用や処方薬の情報を管理、保有しており、病院内患者用端末

10

20

30

40

50

機 1 a、1 b、1 c・・・等にそれぞれ要求に応じてその情報を送信する機能、即ち、当該医療機関の所持データとして、患者固有の I D、診察番号、写真データ、患者情報、診察記録、検査記録が保持されていることと、薬局用端末機 3 に患者識別情報とその患者に対する処方箋情報を送信できる機能を有している。

【 0 0 5 1 】

クレジット会社端末機 4、プリペイドカード会社端末機 5、デビットカード会社端末機 6、或いは金融機関端末機 7 には、それぞれ病院内患者用端末機 1 a、1 b、1 c・・・から送信された診療費用等諸費用支払い指示、診療費用請求額、処方薬費用、病院識別情報、電子マネーカード情報を受信する機能を有しており、病院における諸費用は、患者の診察カードに付加されている電子マネーにて決済が行われる。

10

【 0 0 5 2 】

薬局用端末機 3 は、病院内の薬局、または、病院の近くの薬局に設置される端末で、病院関係者用端末機 2 から送信される患者識別情報、処方箋情報を受信して、該処方箋情報基き薬を処方して、患者に処方薬を受け渡す機能を有している。

【 0 0 5 3 】

次に図 2 を参照して本発明に使用される診察券を中心としたネットワーク構成について、説明する。

図 2 において、8 は患者が各自が保持する診察券であり、9 はカード読取機 1 0 と院内情報システム 1 1 とから構成された医療機関システム、1 2 は町中の金融機関や医療機関内に設置された C D・A T M 入出金端末、1 3 は患者の自宅に設置された P C 1 4 と専用のカード読取機 1 5 からなる患者用端末、1 6 は患者が外部の P C を用いたり携帯電話にてアクセスするためのシステム、1 7 は入出金管理会社のサーバである。

20

【 0 0 5 4 】

而して、前記、診察券 8 を用いて院内システム 1 1、町中の金融機関や医療機関内に設置された C D・A T M 入出金端末 1 2、患者用端末 1 3 並びに外部 P C や携帯電話からなるシステム 1 6 よりそれぞれ暗証番号とパスワードを用いてアクセスするとそれぞれの端末は入出金管理会社のサーバ 1 7 に接続される。

【 0 0 5 5 】

従って、本発明においては、医療機関における診察費用、検査費用、診療費用、薬代等全ての経費を患者が支払うに際して患者は、クレジット会社と提携したクレジット方式の診察券 8、銀行と提携したキャッシュカード方式の診察券 8、プリペイドカード会社と提携したプリペイド方式の診察券 8、或いはデビットカード会社と提携した即時払い方式の診察券 8 を持ち、該それぞれの診察券 8 には磁気テープや I C 及びメモリーチップを埋め込み、該磁気テープや I C 及びメモリーチップ内には患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者の I D 等の個人情報、並びに利用できる必要金額を電子マネーカード専用の C D・A T M 入出金端末機 1 3 により移動させて支払いをすることができる機能を有している。

30

【 0 0 5 6 】

また、本発明においては、医療機関における診察費用、検査費用、診療費用、薬代等全ての経費を患者が支払うに際して患者は、クレジット会社と提携したクレジット方式の診察券 8、銀行と提携したキャッシュカード方式の診察券 8、プリペイドカード会社と提携したプリペイド方式の診察券 8、或いはデビットカード会社と提携した即時払い方式の診察券 6 を持ち、該それぞれの診察券 8 には磁気テープや I C 及びメモリーチップを埋め込み、該磁気テープや I C 及びメモリーチップ内には患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者の I D 等の個人情報、並びに利用できる電子マネーの情報が書き込まれており、該診察券に書き込まれた個人情報や電子マネー情報は病院内や町中に設置された電子マネーカード専用の C D・A T M 入出金端末機 1 3 や患者の操作する自宅の P C からなる患者用端末 1 3、並びに外部 P C や携帯電話アクセスするシステム 1 6 により書き換えや電子マネーのチャージを可能とした。

40

【 0 0 5 7 】

50

更にまた、本発明において、医療機関における診療を受けた患者が医療費支払い用の手段として使用する診察券 8 は患者自身の氏名、各医療機関名、各医療機関の患者の ID 等の個人情報並びに電子マネーの情報が書き込まれた電子マネーカードの機能を有しており、該電子マネーカード専用の CD・ATM の端末機は患者が使用する医療費支払い用 CD・ATM の入出金端末機 13 と、医療機関の関係者が使用するカード読み取り機能を有する院内システム 11 の端末機とをインターネットで入出金管理会社の管理サーバ 17 に接続してなり、該入出金管理会社と前記診療費用の決済を行うクレジット会社用端末機、銀行用端末機、プリペイドカード会社用端末機、デビットカード会社用端末機を接続して患者の医療費を決済可能にネットワークを構築した診察券を用いた医療費支払いシステムを具現化した。

10

【0058】

そして本発明において、患者が医療機関 H での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券 8 は、管理サーバ 17 の公開鍵で暗号化されたカード固有の ID、患者固有の ID、並びに患者固有の公開キーを有していることを特徴としている。

【0059】

また、本発明において、患者が医療機関 H での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券 8 を管理する入出金管理会社の管理サーバ 17 には、所持データとして、患者固有の ID、患者固有の公開キー、カード固有の ID、パスワード、生体認証データ、写真データ、利用記録、残金情報が保持されていること特徴としている。

20

【0060】

また、本発明は、患者が医療機関 H での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券 8 を使用して支払いをする当該医療機関 H の所持データとして、患者固有の ID、診察番号、写真データ、患者情報、診察記録、検査記録が保持されていることを特徴としている。

【0061】

また、本発明において、患者が医療機関 H での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券 8 は、該診察券 8 の電子マネーの入出金方法として医療機関内 H に設置された病院内患者用 CD・ATM の端末機 1a、1b、1c・・・や、自宅の PC でインターネットに接続された専用の患者用端末 13 や、町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置された CD・ATM の端末機 12 や、コンビニエンスストア等に設置された CD・ATM の端末機 12 や、金融機関と提携したデビットカード会社に CD・ATM の端末機を介してアクセスすることで電子マネーの入出金操作が行えることを特徴としている。

30

【0062】

また、本発明において、患者が医療機関 H での診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券 8 の新規発行は、患者本人と患者がかかる医療機関 H や該医療機関と連携されたカード会社を介して郵便等で患者本人を確認の後、クレジットカード会社、プリペイドカード会社、デビットカード会社そしてキャッシュカードを発行する金融機関等がそれぞれの使用勝手に基づいて前記電子マネーカード機能を有する診察券 8 を発行することを特徴とする。

40

【0063】

また、本発明において、患者が急に医療機関 H にかかり初めて電子マネーカード機能を有する診察券 8 を必要とする際には、当該医療機関 H は電子マネーカード機能の付加されていない仮カードを発行し、後日患者がかかった医療機関 H や該医療機関と連繋されたカード会社を介して郵便等で患者本人を確認の後、クレジットカード会社、プリペイドカード会社、デビットカード会社そしてキャッシュカードを発行する金融機関等がそれぞれの使用勝手に基づいて前記電子マネーカード機能を有する診察券 8 を発行することを特徴とする。

【0064】

50

また、本発明において、患者が医療機関Hでの診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券8の新規発行は、患者本人と患者がかかる医療機関で本人確認ができれば即日発行可能となし、また、カード会社を介しての電子マネーカード機能を有する診察券8の新規発行は郵便等で患者本人を確認の後、クレジットカード会社、プリペイドカード会社、デビットカード会社そしてキャッシュカードを発行する金融機関等がそれぞれの使用勝手に基づいて前記診察券を発行することを特徴としている。

【0065】

また、本発明において、患者が医療機関Hでの診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券8の電子マネーを入金する方法は患者が自宅の患者専用のPC端末13や、外部PCや携帯電話アクセスするシステム16の携帯電話にてチャージした電子マネーを銀行に転送すること、並びに患者本人が町中の金融機関（銀行・郵便局等）に設置されたCD・ATMの端末機12や、コンビニエンスストア等に設置されたCD・ATMの端末機12で現金を入金することにて行われることを特徴としている。

【0066】

また、本発明において、患者が医療機関Hでの診療費用の支払いに使用する電子マネーカード機能を有する診察券8の電子マネーを出金する方法は、電子マネーの残金を金融機関（入出金管理会社の管理サーバ17を含む）を介して確認し、決済金額に見合う残金がある場合には利用可能となり、決済金額に見合う残金がない場合には利用不可能となることを特徴としている。

【0067】

更に、また、本発明において、患者が医療機関Hで使用する電子マネーカード機能を有する診察券8の認証方式はインターネット用にIDとパスワード、医療機関での患者本人の確認用に写真、CD・ATMの端末機での患者本人の確認用に暗証番号と生体認証を組み合わせ使用することができることを特徴としている。

【産業上の利用可能性】

【0068】

上述のように本発明は、最新のコンピューター技術で各端末をインターネットで接続し、また、診察券は、クレジット会社の電子マネーであったり、プリペイドカードの電子マネーであったり、デビットカード会社の電子マネーであったり、また、銀行のキャッシュカードから成る電子マネーを使用することにより、医療機関における最大の欠陥である通院や入院時に現金を持ち歩くこと、また諸費用の支払いのためや、薬局での長時間の順番待ちを省くことが解消できるもので、その産業上の利用価値は多大なものがある。

【図面の簡単な説明】

【0069】

【図1】本発明の実施例を説明する医療費支払いシステムの構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の実施例に係るもので医療費支払いシステムを診察カードを中心としたネットワーク構成にて説明するブロック図である。

【符号の説明】

【0070】

- 1a、1b、1c・・・ 患者用CD・ATM端末機
- 2 病院関係者用端末機
- 3 薬局用端末機
- 4 クレジット会社端末機
- 5 プリペイドカード会社端末機
- 6 デビット会社端末機
- 7 金融機関端末機
- 8 診察券
- 9 医療機関システム
- 10 カード読取機

10

20

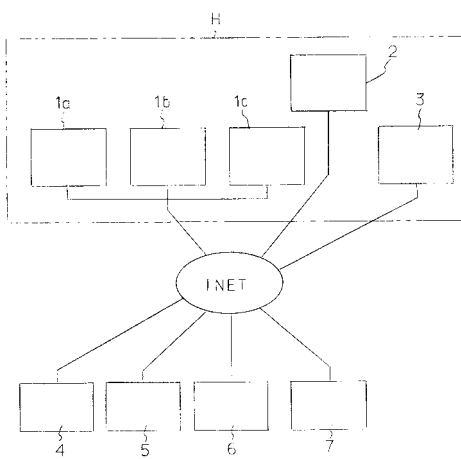
30

40

50

- 1 1 院内情報システム
- 1 2 金融機関や医療機関内に設置されたＣＤ・ＡＴＭ端末
- 1 3 患者用端末
- 1 4 患者用ＰＣ
- 1 5 カード読取機
- 1 6 ＰＣや携帯電話にてアクセスするシステム
- 1 7 入出金管理会社サーバ
- ＩＮＥＴ インターネット

【図 1】



【図 2】

